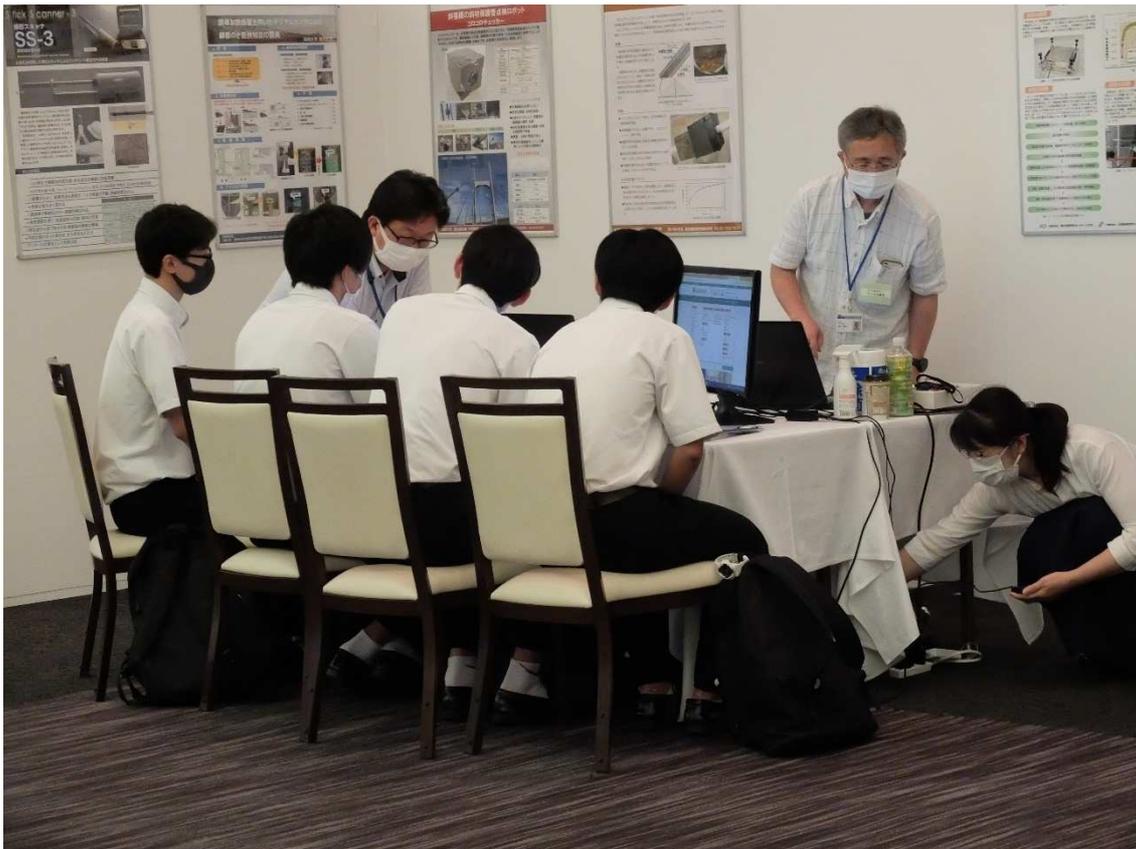


SAGA建設技術フェア2022

開催報告書



本報告書は、令和4年6月15日（水）～16日（木）にかけてガーデンテラス佐賀ホテル&マリトピアで開催した「SAGA建設技術フェア2022」の実施内容およびアンケート調査結果等についてとりまとめたものです。

令和4年9月

公益財団法人佐賀県建設技術支援機構

目次

| | |
|-------------------------|----|
| 1. フェアの概要 | 1 |
| 2. 出展者 | 2 |
| 2.1 出展者一覧表（42 団体） | 2 |
| 2.2 会場配置 | 3 |
| 2.3 会場の様子 | 4 |
| 3. 来場者 | 5 |
| 3.1 来場者数 | 5 |
| 3.2 来場時間帯 | 6 |
| 4. 実施内容 | 7 |
| 4.1 ポスター及びチラシ | 7 |
| 4.2 開催プログラム | 8 |
| 4.3 開会式 | 10 |
| 4.4 特別講演 | 11 |
| 4.5 技術者発表（1）（2） | 12 |
| 4.6 技術者発表（3） | 12 |
| 4.7 展示技術プレゼンテーション | 13 |
| 4.8 パネル展示 | 14 |
| 4.9 閉会式 | 15 |
| 4.10 受講証明書の配布 | 15 |
| 5. アンケート結果 | 16 |
| 5.1 来場者アンケート | 16 |
| 5.2 出展者アンケート | 26 |
| 6. まとめ | 33 |

1. フェアの概要

| | | |
|-------|--|------|
| 主 催 | 公益財団法人佐賀県建設技術支援機構 | |
| 共 催 | 佐賀県／佐賀大学／一般社団法人佐賀県県土づくりコンサルタント協会／ 一般社団法人佐賀県建設業協会／一般社団法人佐賀県建築士会／特定非営 利活動法人技術交流フォーラム | |
| 後 援 | 国土交通省九州地方整備局／佐賀県教育委員会／佐賀市／一般社団法人佐 賀県地質調査業協会／佐賀県土木施工管理技士会／一般社団法人佐賀県建 築士事務所協会／低平地研究会／公益社団法人土木学会西部支部／公益社 団法人地盤工学会九州支部／公益社団法人日本技術士会九州本部／一般社 団法人建設コンサルタント協会九州支部／NHK 佐賀放送局／サガテレビ／ 佐賀新聞社／建設新聞社 | |
| 日 時 | 【1日目】 令和4年6月15日（水）10:00～16:00 【2日目】 令和4年6月16日（木）10:00～16:00 | |
| 場 所 | ガーデンテラス佐賀 ホテル&マリトピア（佐賀市新栄東3丁目7番8号） | |
| 目 的 | 建設分野（土木・建築）の技術・工法・製品などについて産学官における技 術情報の交流の場を提供し建設分野の技術開発や新技術導入の促進を図る とともに、高校生・大学生を含む一般の方々に建設業界の魅力や社会資本整 備の必要性について理解を深めてもらうことにより、建設産業の発展に寄 与することを目的とする。 | |
| テ ー マ | 建設技術が創る安全・安心なまちづくり | |
| 内 容 | 特別講演 技術者発表 学生研究発表 技術展示ブース 展示技術プレゼンテーション パネル展示 | |
| 出展テーマ | 環境／防災／コスト縮減／維持管理／ICT／佐賀の技術 | |
| 来 場 者 | 総数 1,565名（2日間延べ） | |
| | 【内訳】 | |
| | 官公庁 | 76名 |
| | 建設業 | 504名 |
| | コンサルタント | 147名 |
| | 一般・その他 | 131名 |
| | 学生・生徒 | 487名 |
| | ブース関係者 | 220名 |

2. 出展者

2.1 出展者一覧表（42 団体）

42 の企業・団体からブースを出展していただきました。県内の企業・団体からの出展は 16 ブースでした。

【出展者一覧（42 団体）】

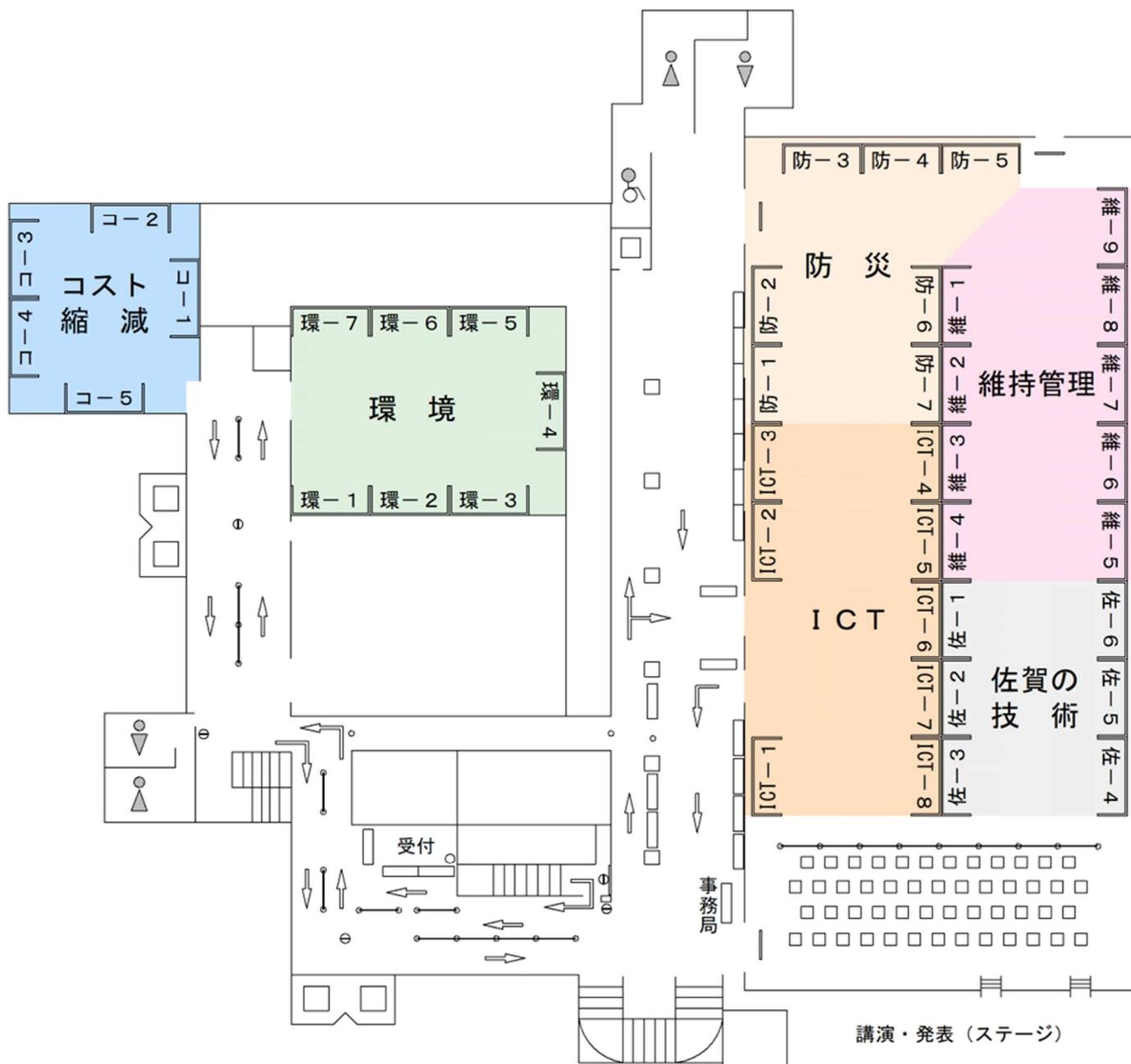
| 分類 | 番号 | 企業 団体名 |
|-------|-------|---------------------------------------|
| 環 境 | 環-1 | 協同組合Masters GEOTETS工法研究会 |
| | 環-2 | 日本建設技術株式会社 |
| | 環-3 | 三協化学株式会社 |
| | 環-4 | 宇部工業株式会社 |
| | 環-5 | 日本乾溜工業株式会社 佐賀支店 |
| | 環-6 | 不二コンクリート工業株式会社 |
| | 環-7 | 株式会社小松製作所 |
| 防 災 | 防-1 | 株式会社和建 |
| | 防-2 | 株式会社エムオーテック 福岡支店 |
| | 防-3 | 株式会社プロテックエンジニアリング |
| | 防-4 | PAN WALL工法協会 矢作建設工業株式会社) |
| | 防-5 | 日本製鉄株式会社 |
| | 防-6 | リックス株式会社 |
| | 防-7 | 九州電力グループ西日本技術開発株式会社 佐賀営業所 |
| コスト削減 | コ-1 | 一般社団法人セメント協会 |
| | コ-2 | 景観壁体研究会 |
| | コ-3 | PC-壁体工業会 |
| | コ-4 | 森田建設株式会社 |
| | コ-5 | 日鉄スラグ製品株式会社 |
| 維持管理 | 維-1 | 三陽金属株式会社 |
| | 維-2 | FKK 極東鋼弦コンクリート振興株式会社 |
| | 維-3 | 大林道路株式会社 九州支店 |
| | 維-4 | 佐賀県のリフレッシュ工法協会 |
| | 維-5 | 株式会社エージェンシーソフト九州支店 |
| | 維-6 | 株式会社パンプー苑 |
| | 維-7 | 株式会社日本海コンサルタント |
| | 維-8 | 株式会社藤崎建設 一般社団法人コンクリートメンテナンス協会 |
| | 維-9 | 国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所 |
| ICT | ICT-1 | 国際技術コンサルタント株式会社 |
| | ICT-2 | 株式会社島内エンジニア |
| | ICT-3 | 福井コンピュータ株式会社 |
| | ICT-4 | 村本建設株式会社 |
| | ICT-5 | アイサンテクノロジー株式会社 |
| | ICT-6 | 精密舎株式会社 |
| | ICT-7 | 株式会社ワイビーエム |
| | ICT-8 | エポコラム協会 九州支部 |
| 佐賀の技術 | 佐-1 | 株式会社名村造船所 鉄構事業部 |
| | 佐-2 | 株式会社セリタ建設 |
| | 佐-3 | 日之出水道機器株式会社 |
| | 佐-4 | フローティング基礎研究会 |
| | 佐-5 | 佐賀大学理工学部/理工学研究科 都市基盤工学コース/建築環境デザインコース |
| | 佐-6 | 一般社団法人佐賀県県土づくりコンサルタント協会 |

2.2 会場配置

新型コロナウイルス感染対策の観点から、来場者同士が密にならないよう十分な広さを確保するため、3階フロアをすべて貸し切り、出展ブースの会場を3箇所設けました。

受付付近にサーマルカメラを設置し、検温と受付がスムーズにできるようにしました。

【会場配置図】



2.3 会場の様子



【 全 景 】



【 受 付 】



【 出 展 ブース 】



【 講 演 ・ 発 表 】

3. 来場者

3.1 来場者数

2日間で総計 1,565 名の方にご来場いただきました。建設業の来場者が最も多く、次いで学生（大学生・高校生）が多い結果となりました。

なお、来場にあたっては、新型コロナウイルスの感染対策ならびに受付での混雑緩和のため、WEB による事前申込みをお願いしました。

【来場者集計表】

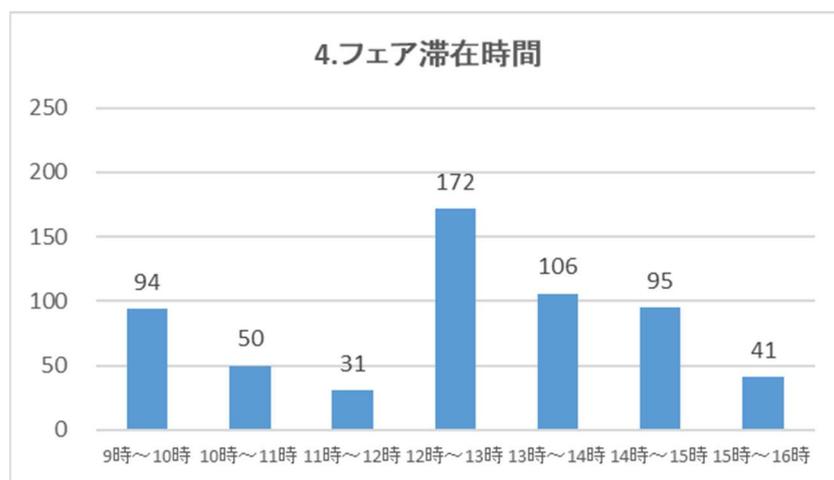
(単位：人)

| 日時 来場者 | 6/15 (水) | | 6/16 (木) | | 小計 |
|----------------------|----------|-----|----------|-----|------|
| | 午前 | 午後 | 午前 | 午後 | |
| 来賓・共催・講師 | 9 | 4 | 2 | 2 | 17 |
| 建設業 | 106 | 143 | 139 | 116 | 504 |
| コンサルタント業 | 50 | 29 | 27 | 41 | 147 |
| 個人 | - | 2 | 2 | 2 | 6 |
| その他 | 30 | 27 | 25 | 26 | 108 |
| 官公庁 | 24 | 9 | 25 | 18 | 76 |
| 大学生 | 9 | 98 | - | 89 | 196 |
| 高校生 (9校) | 63 | 99 | 95 | 34 | 291 |
| ブース出展者スタッフ (42団体) | - | 121 | - | 99 | 220 |
| 小計 | 291 | 532 | 315 | 427 | 1565 |
| 合計 | 823 | | 742 | | 1565 |

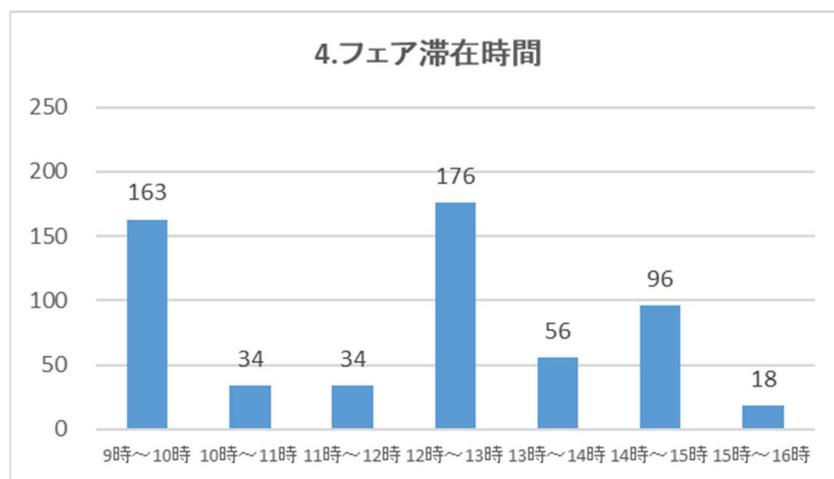
3.2 来場時間帯

来場者へのアンケート結果に基づく来場時間帯は、午前と午後ともに、時間が経つにつれて滞在人数が減る傾向にあるようです。

【来場時間帯】



(1日目)



(2日目)

4.2 開催プログラム

1日目は開会式、特別講演、技術者発表、学生研究発表、展示技術プレゼンテーション8件、2日目は特別講演、技術者発表、展示技術プレゼンテーション10件、閉会式を行いました。

| 6月15日(水) 【1日目】 | |
|-----------------------|---|
| 9:30~ | 受付開始 |
| 10:00~ | 開会式 |
| 10:15 | 主催者挨拶 / 来賓挨拶 / テープカット |
| | 展示技術プレゼンテーション(1) |
| 10:15~ | 【佐-1】(株)名村造船所 鉄構事業部 SAGA建設技術フェア2022 ~名村造船所 橋梁事業の紹介~ |
| 11:00 | 【ICT-4】村本建設(株) 建設DXへの取り組み ~村本建設のICT技術~ |
| | 【維-1】三陽金属(株) 石飛び、キックバックを抑え安全草刈 無双ツインブレード |
| | 技術者発表(1) |
| 11:00~ | 「建設業界の魅力」 |
| 11:30 | 佐賀県 佐賀土木事務所 街路公園課 主査 三根 達也 氏 東部土木事務所 工務第一課 工務第二担当 主任主査 小野 盛一 氏 |
| | 展示技術プレゼンテーション(2) |
| 11:30~ | 【佐-4】フローティング基礎研究会 軟弱地盤上の道路工法、沈下・振動対策、トータルコストミニマム |
| 12:00 | 【ICT-3】福井コンピュータ(株) 建設DXへの近道 ~i-constructionからBIM/CIM標準化への対応~ |
| | 特別講演(1) |
| 13:00~ | 「SAGAサンライズパーク整備について」 |
| 14:00 | 佐賀県 地域交流部 SAGA2024・SSP推進局 SAGAサンライズパーク整備推進課 整備担当係長(電気) 東 啓一郎 氏 整備担当係長(建築) 市丸 雄基 氏 |
| | 学生研究発表 |
| 14:00~ | 「将来展望と研究発表」 |
| 14:30 | 佐賀大学大学院 理工学研究科 理工学専攻 都市基盤工学コース 溝上 哲平 氏 建築環境デザインコース 大屋 貴芸 氏 |
| | 展示技術プレゼンテーション(3) |
| 14:30~ | 【維-3】大林道路(株)九州支店 社会資本の長寿命化と維持管理 タフアスコン/楽ファルト/ミチテラ |
| 15:45 | 【防-3】(株)プロテックエンジニアリング 小規模渓流向け杭式土石流・流木対策工 アーバンガード |
| | 【ICT-8】エポコラム協会 九州支部 エポコラム工法(地盤改良);コスト縮減、工期短縮、ICT技術 |
| ~16:00 | 1日目閉会 |

ブ
ー
ス
展
示

6月16日(木) 【2日目】

| | | |
|-----------------|--|-----------------------|
| 9:30~ | 受付開始 | ブ ー ス 展 示 |
| 10:00~ | 2日目開会 | |
| 10:00~ 10:45 | 展示技術プレゼンテーション(4) | |
| | 【佐-2】 (株) セリタ建設 ≪国土交通省 ICT活用工事(地盤改良) 要領対応≫ ICT地盤改良施工管理システム | |
| | 【環-3】 三協化学(株) 湿潤工法 リペアソルブA/N及びリペアソルブS工法など | |
| 10:45~ 11:15 | 【コ-1】 一般社団法人セメント協会 ライフサイクルコストに優しいコンクリート舗装 | |
| | 技術者発表(2) | |
| 10:45~ 11:15 | 「建設業界の魅力」 佐賀県 唐津土木事務所 工務第一課 工務第一担当 技師 田中 陸人 氏 伊万里土木事務所 工務課 工務第二担当 主任主査 西村 仁志 氏 | |
| | 展示技術プレゼンテーション(5) | |
| 11:15~ 12:00 | 【環-7】 (株) 小松製作所 油圧アタッチメント交換容易化による安全・環境・生産性向上 | |
| | 【環-1】 協同組合Masters GEOTETS工法研究会 安心して鋼矢板を引抜けるオンリーワン! GEOTETS工法 | |
| | 【ICT-1】 国際技術コンサルタント(株) レーザー計測・3Dモデリングサービス(BIM/CIM対応) | |
| 13:00~ 14:00 | 特別講演(2) | |
| | 「九州地方整備局におけるインフラDXの取り組み」 国土交通省 九州地方整備局 企画部 インフラDX推進室 係長 猪井 知明 氏 | |
| 14:00~ 14:30 | 技術者発表(3) | |
| | 「みんなの暮らしを守るダム ～経験したことのない大雨に備える佐賀県独自のダム運用～」 佐賀県 県土整備部 道路課 地方道担当 主査 三瀬 志帆美 氏 | |
| 14:30~ 15:45 | 展示技術プレゼンテーション(6) | |
| | 【防-4】 PAN WALL工法協会(矢作建設工業(株)) PAN WALL 安全な逆巻き施工を基本とする急勾配地山補強土工法 | |
| | 【コ-4】 森田建設(株) Al合金を活用したシステム型枠 工期短縮を可能にするALSP ² 工法 | |
| | 【維-7】 (株) 日本海コンサルタント AI橋梁診断支援システム Dr.Bridge | |
| | 【ICT-7】 (株) ワイビーエム 機械メーカーが提案するICT地盤改良工 | |
| 15:55~ | 閉会式 | |
| 16:00 | 主催者挨拶 | |

4.3 開会式

ステージにて開会式を執り行いました。共催や後援の皆様方にご列席いただき、主催者挨拶、来賓挨拶、テープカットが行われました。

【主催者挨拶(支援機構 王丸理事長)】 【来賓挨拶(武雄河川事務所所長 阿部 成二 氏)】



【来賓・共催者によるテープカット】



(テープカット写真 左から)

特定非営利活動法人 技術交流フォーラム

一般社団法人 佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会

佐賀大学 理工学部 都市工学部門

公益財団法人 佐賀県建設技術支援機構

国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所

一般社団法人 佐賀県建設業協会

一般社団法人 佐賀県建築士会

理事長 小野 龍太 氏

副会長 詫間 政弘 氏

教授 帯屋 洋之 氏

理事長 王丸 義明

所長 阿部 成二 氏

副会長 山崎 虎次 氏

会長 小島 啓 氏

4.4 特別講演

1 日目は、

佐賀県 地域交流部 SAGA2024・SSP 推進局

SAGA サンライズパーク整備推進課 整備担当係長（電気） 東 啓一郎 氏

SAGA サンライズパーク整備推進課 整備担当係長（建築） 市丸 雄基 氏

に「SAGA サンライズパーク整備について」と題してご講演いただきました。

2 日目は、

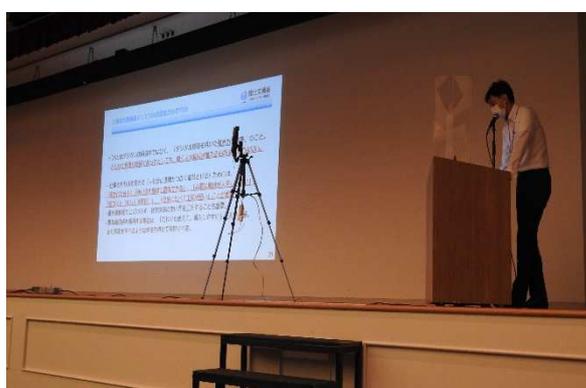
国土交通省 九州地方整備局 企画部 インフラ DX 推進室 係長 猪井 知明 氏

に「九州地方整備局におけるインフラ DX の取り組み」と題してご講演いただきました。

【SAGA サンライズパーク整備推進課 東氏と市丸氏による講演の様子】



【国土交通省九州地方整備局 企画部 インフラ DX 推進室 猪井氏による講演の様子】



4.5 技術者発表（1）（2）

建設業界での若手の一層の活躍に寄与することを目的として、「建設業界の魅力」というテーマで技術者発表を2日間行いました。

1日目は、

佐賀県 佐賀土木事務所 街路公園課 主査 三根 達也 氏

佐賀県 東部土木事務所 工務第一課 工務第二担当 主任主査 小野 盛一 氏

に、ご講演いただきました。

2日目は、

佐賀県 唐津土木事務所 工務第一課 工務第一担当 技師 田中 陸人 氏

佐賀県 伊万里土木事務所 工務課 工務第二担当 主任主査 西村 仁志 氏

に、ご講演いただきました。

【講演の様子】

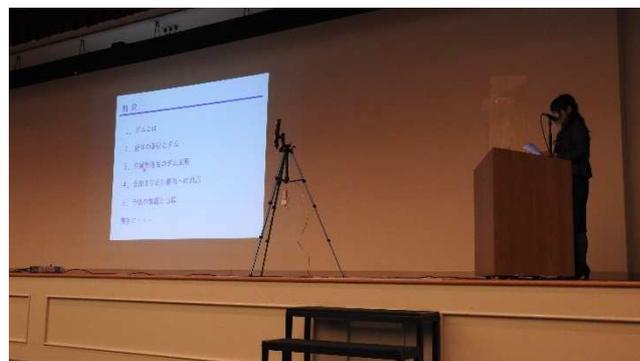


4.6 技術者発表（3）

2日目は、建設業界での女性の一層の活躍に寄与することを目的として、

佐賀県 県土整備部 道路課 地方道担当 主査 三瀬 志帆美 氏に、「みんなのくらしを守るダム～経験したことのない大雨に備える佐賀県独自のダム運用～」と題してご講演いただきました。

【佐賀県 県土整備部 道路課 地方道担当 三瀬氏による講演の様子】



4.7 展示技術プレゼンテーション

18 のブース出展者による展示技術プレゼンテーションをステージにて行いました。1 出展者あたりの発表時間は 15 分で各技術や製品などについて発表をしていただきました。

【技術発表者一覧表】

| 分類 | 企業・団体名 | 発表内容 |
|-------|--------------------------|--|
| 環-1 | 協同組合Masters GEOTETS工法研究会 | 安心して鋼矢板を引抜けるオンリーワン！GEOTETS工法 |
| 環-3 | 三協化学株式会社 | 湿潤工法 リペアソルブA/N及びリペアソルブS工法・・・NETIS登録済み アスベスト含有塗材対応 環境対応型 塗材剥離剤、及び PCB・鉛含有塗膜対応 鋼構造物用・水系塗膜剥離剤 |
| 環-7 | 株式会社小松製作所 | 油圧アタッチメント交換容易化による安全・環境・生産性向上 |
| 防-3 | 株式会社プロテックエンジニアリング | 小規模渓流向け杭式土石流・流木対策工 アーバンガード |
| 防-4 | PAN WALL工法協会(矢作建設工業株式会社) | PAN WALL 安全な逆巻き施工を基本とする急勾配地山補強土工法 |
| コ-1 | 一般社団法人セメント協会 | ライフサイクルコストに優しいコンクリート舗装 |
| コ-4 | 森田建設株式会社 | アルミ合金を活用したシステム型枠 工期短縮を可能にするALSP®工法 |
| 維-1 | 三陽金属株式会社 | 石飛び、キックバックを抑え安全草刈 無双ツインブレード |
| 維-3 | 大林道路株式会社 九州支店 | 社会資本の長寿命化と維持管理 「タフアスコン」「楽ファルト」「ミチテラ」 |
| 維-7 | 株式会社日本海コンサルタント | AI橋梁診断支援システム Dr.BridgeTM |
| ICT-1 | 国際技術コンサルタント株式会社 | レーザー計測・3Dモデリングサービス(BIM/CIM対応) |
| ICT-3 | 福井コンピュータ株式会社 | 建設DXへの近道 ～i-constructionからBIM/CIM標準化への対応～ |
| ICT-4 | 村本建設株式会社 | 建設DXへの取り組み ～村本建設のICT技術～ |
| ICT-7 | 株式会社ワイビーエム | 機械メーカーが提案するICT地盤改良工 |
| ICT-8 | エポコラム協会 九州支部 | エポコラム工法(地盤改良)；コスト縮減、工期短縮、ICT技術 |
| 佐-1 | 株式会社名村造船所 鉄構事業部 | SAGA建設技術フェア2022～名村造船所 橋梁事業の紹介～ |
| 佐-2 | 株式会社セリタ建設 | ≪国土交通省 ICT活用工事(地盤改良)要領対応≫ ICT地盤改良施工管理システム |
| 佐-4 | フローティング基礎研究会 | 軟弱地盤上の道路工法、沈下・振動対策、トータルコストミニマム |

【展示技術プレゼンテーションの様子】



4.8 パネル展示

会場では以下の団体からのご協力によりパネル展示を行いました。

- ・国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所
- ・佐賀県
- ・一般社団法人 佐賀県建築士会

【パネル展示の様子】



(武雄河川事務所)



(佐賀県)



(佐賀県建築士会)



4.9 閉会式

当支援機構の王丸理事長の閉会挨拶で2日間の幕を閉じました。

【閉会挨拶】



【閉会式の様子】



4.10 受講証明書の配布

当フェアは一般社団法人全国土木施工管理技士会連合会の運営する CPDS（継続学習制度）の学習プログラムとして認定を受けており、希望する来場者に受講証明書を発行しました。

なお、CPDS のユニット数は両日とも 3 ユニットでした。

5. アンケート結果

5.1 来場者アンケート

来場者を対象にアンケート調査を行いました。

(1) 1日目

設問1) フェアの開催はどこで知ったか

職場内(学校内)からの案内が最も多くなりました。

設問2) 職業

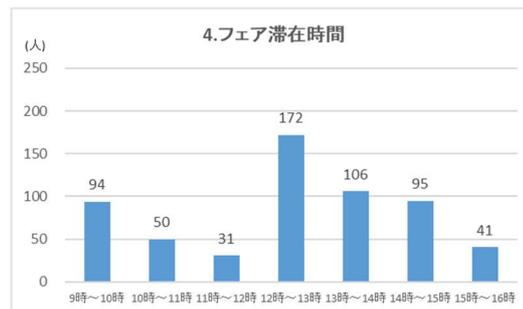
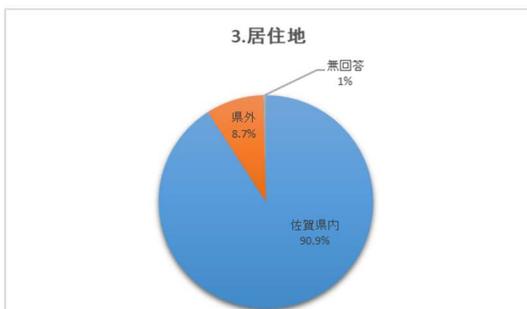
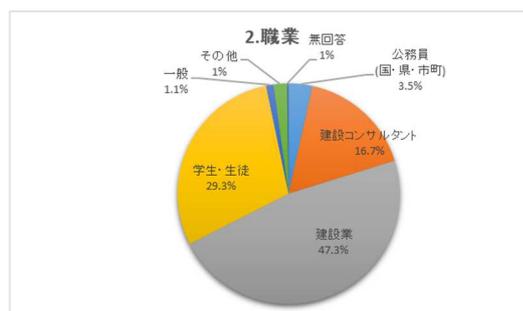
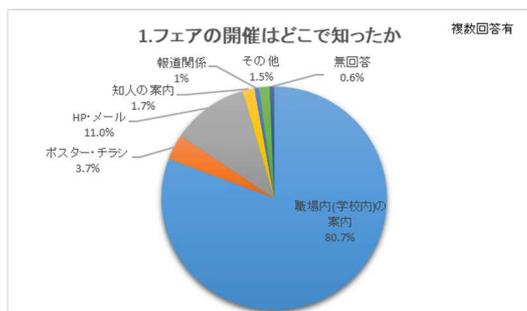
建設業が最も多く来場者のほぼ半数を占め、次いで学生・生徒、建設コンサルタントとなっています。

設問3) 居住地

佐賀県内からの来場者が約90%を占めています。

設問4) 滞在時間

午前と午後ともに、時間が経つにつれて滞在人数が減る傾向にあるようです。



設問 5) 来場目的

情報収集が最も多く約 56%、次いで建設技術への興味が 34%程度となっています。

設問 5-1) 来場目的は達成できたか

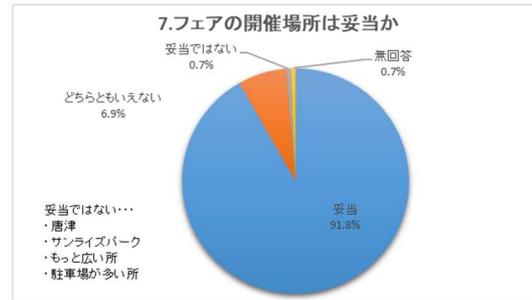
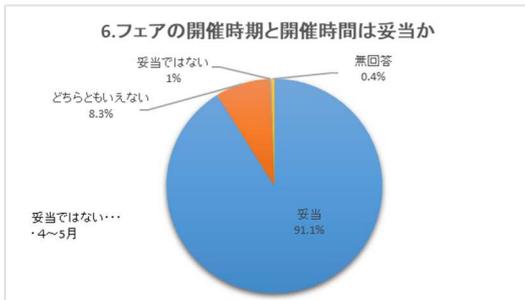
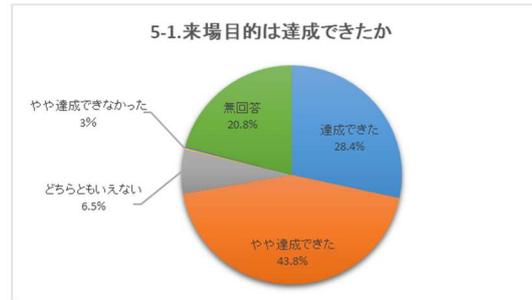
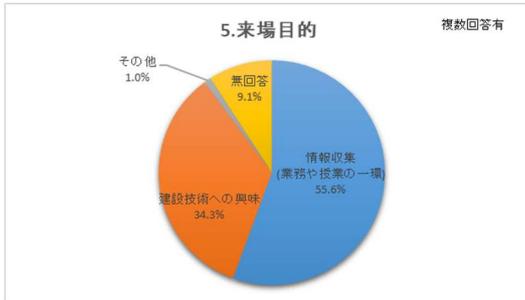
達成できたとやや達成できたを合計すると約 72%となっています。

設問 6) 開催時期と開催時間は妥当か

妥当と回答した来場者は 91%程度となっています。

設問 7) 開催場所は妥当か

妥当という回答は約 91%となっています。



設問 8) 毎年の開催を希望するか

希望するという回答は 84%程度となっています。

設問 9) 今回のフェアで印象に残ったプログラム

多くの方は、出展ブースが印象に残ったようです。

設問 10) フェアに関する評価

良い、やや良いという回答は約 88%となっています。悪いという回答はありませんでした。

【良い】

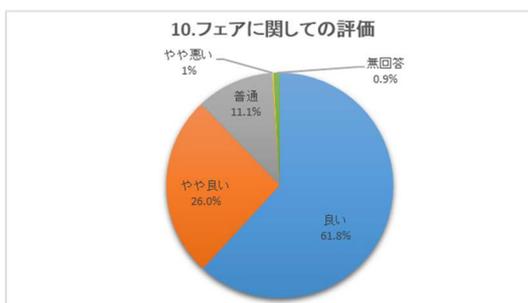
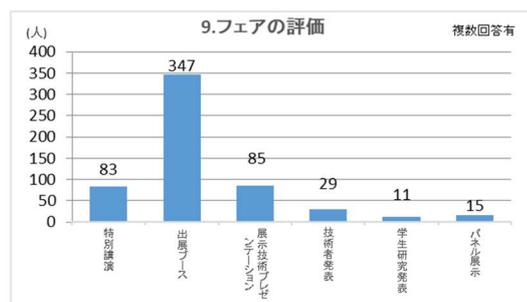
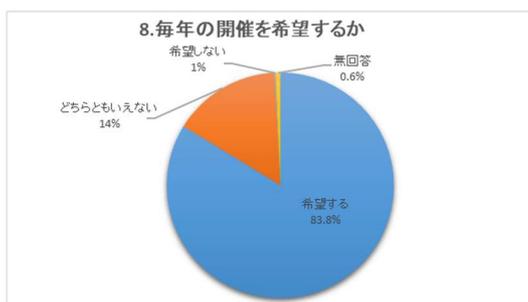
- ・多岐にわたる分野の専門的な知識を収集できる場になっており、別の視点から業界全体を見る良い機会になった
- ・多くの企業の強みや魅力を知れて面白かった
- ・企業同士の交流の場にもなっていて素晴らしいと思う
- ・学生に対して、未来の技術者としての知識の基盤になった

【やや良い】

- ・最新の技術や知見を学ぶことができ、また情報収集もできた
- ・最新技術に直接触れられる
- ・ブースで話を聞いているときに講演の声が大きく聞こえにくかった
でもブースの説明は丁寧で良かった
- ・会場が広く、コロナ感染の対応が良かった

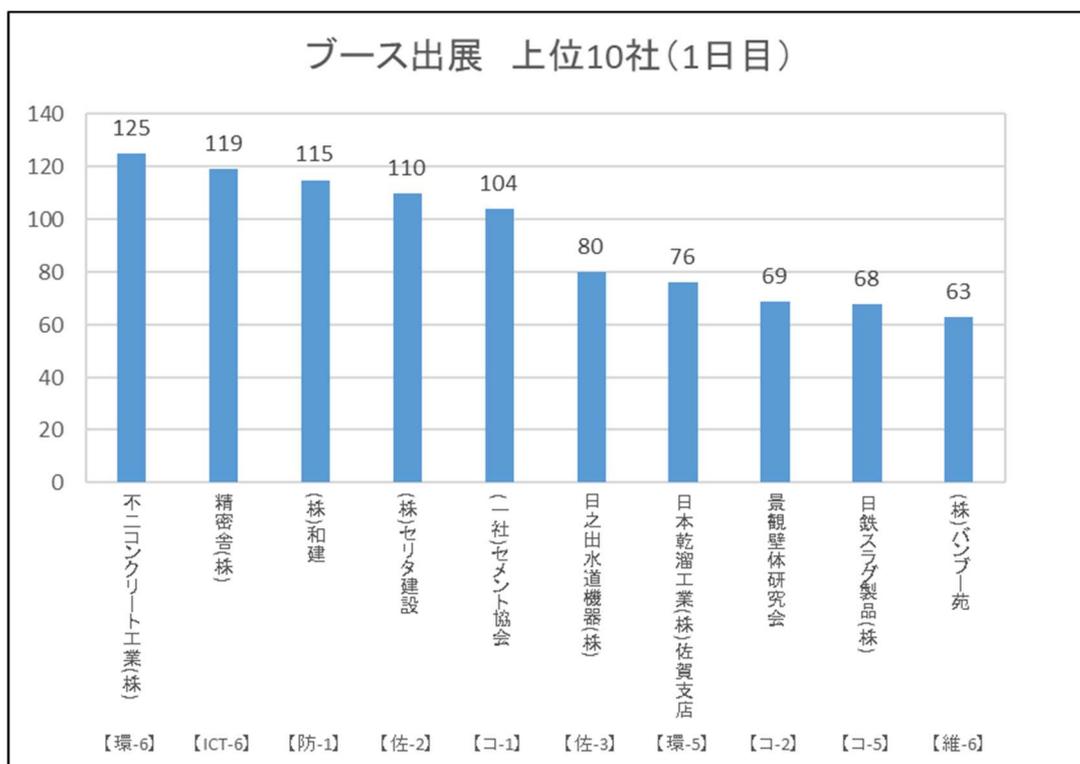
【普通】

- ・出展ブース等の内容で建築分野も充実させて欲しいです



【出展ブース確認押印欄の上位 10 社（1 日目）】

アンケート用紙に設けた出展ブース確認押印欄を集計したところ、上位 10 社はグラフのとおりであり、環境に関する技術の【環-6】不二コンクリート工業（株）が最も多く、次いで ICT に関する技術の【ICT-6】精密舎（株）となっています。



(2) 2日目

設問1) フェアの開催はどこで知ったか

職場内(学校内)からの案内が最も多くなりました。

設問2) 職業

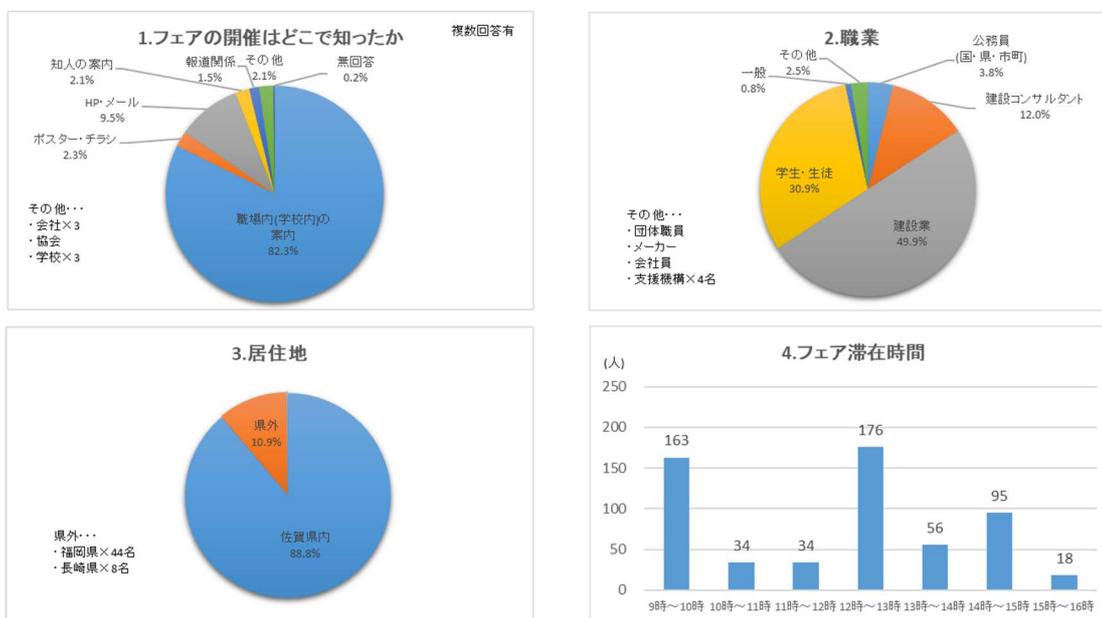
建設業が最も多く来場者の約半数を占めています

設問3) 居住地

佐賀県内から来場者が約89%を占めています。

設問4) 滞在時間

1日目と同様、午前と午後ともに、時間が経つにつれて滞在人数が減る傾向にあるようです。



設問 5) 来場目的

情報収集が最も多く約 55%、建設技術への興味が 32%程度となっています。

設問 5-1) 来場目的は達成できたか

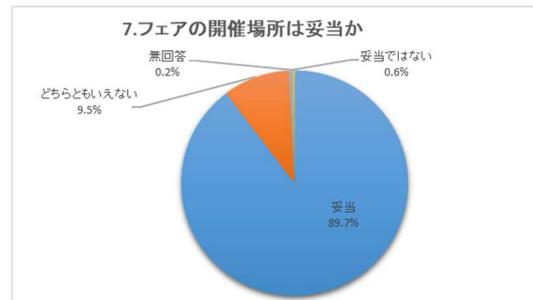
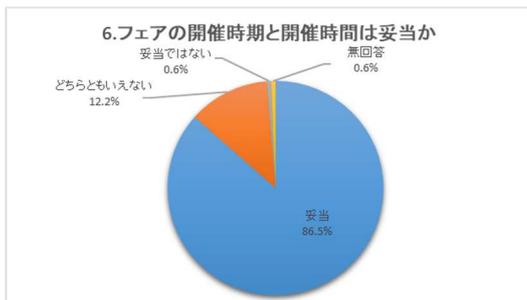
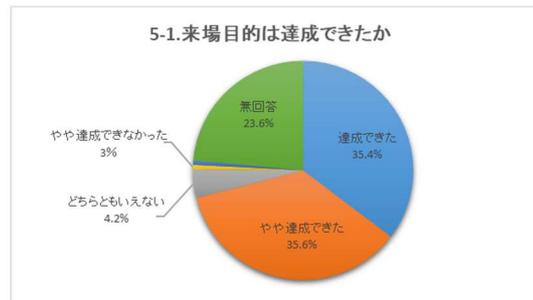
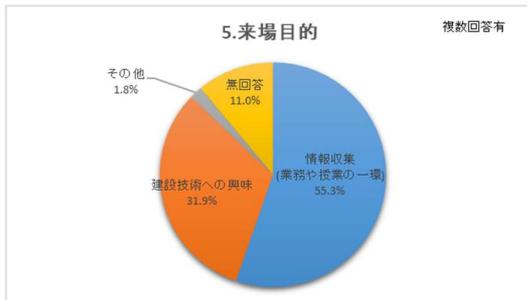
達成できたとやや達成できたを合計すると 71%となっています。

設問 6) 開催時期と開催時間は妥当か

妥当と回答した来場者は約 86%となっています。

設問 7) 開催場所は妥当か

妥当という回答は約 90%となっています。



設問 8) 毎年の開催を希望するか

希望するという回答は 82%程度となっています。

設問 9) 今回のフェアで印象に残ったプログラム

多くの方は、出展ブースが印象に残ったようです。

設問 10) フェアに関する評価

良い、やや良いという回答は約 90%となっています。

【良い】

- ・毎年新しい技術・情報を得られること
- ・技術力向上を目的とし、達成された
- ・多種のブース出展があり直接説明を受けられて良い
- ・企業のみなさんが分かりやすく丁寧に会社のことを教えてくれた
- ・インフラ DX の取組の中のメタバースに感銘した

【やや良い】

- ・新技術の動向収集に良い
- ・普段見られない技術等が分かり良かった

【普通】

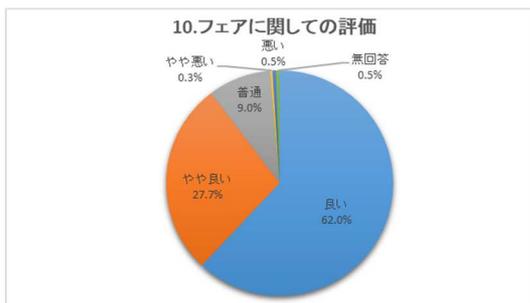
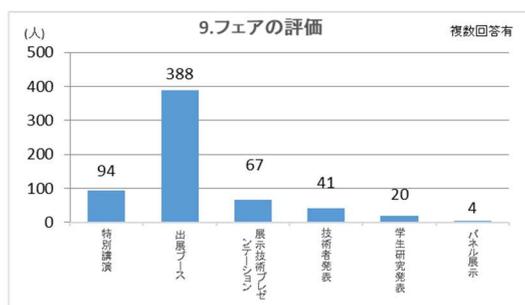
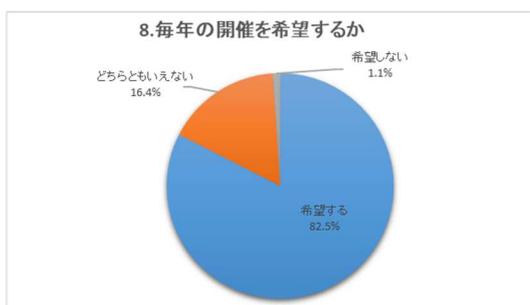
- ・土木が多かったので建築を増やして欲しい
- ・自分は将来に困ったので良かったと思う

【やや悪い】

- ・建築分野が少なかったから
- ・さらに多くの出展ブース数がほしい

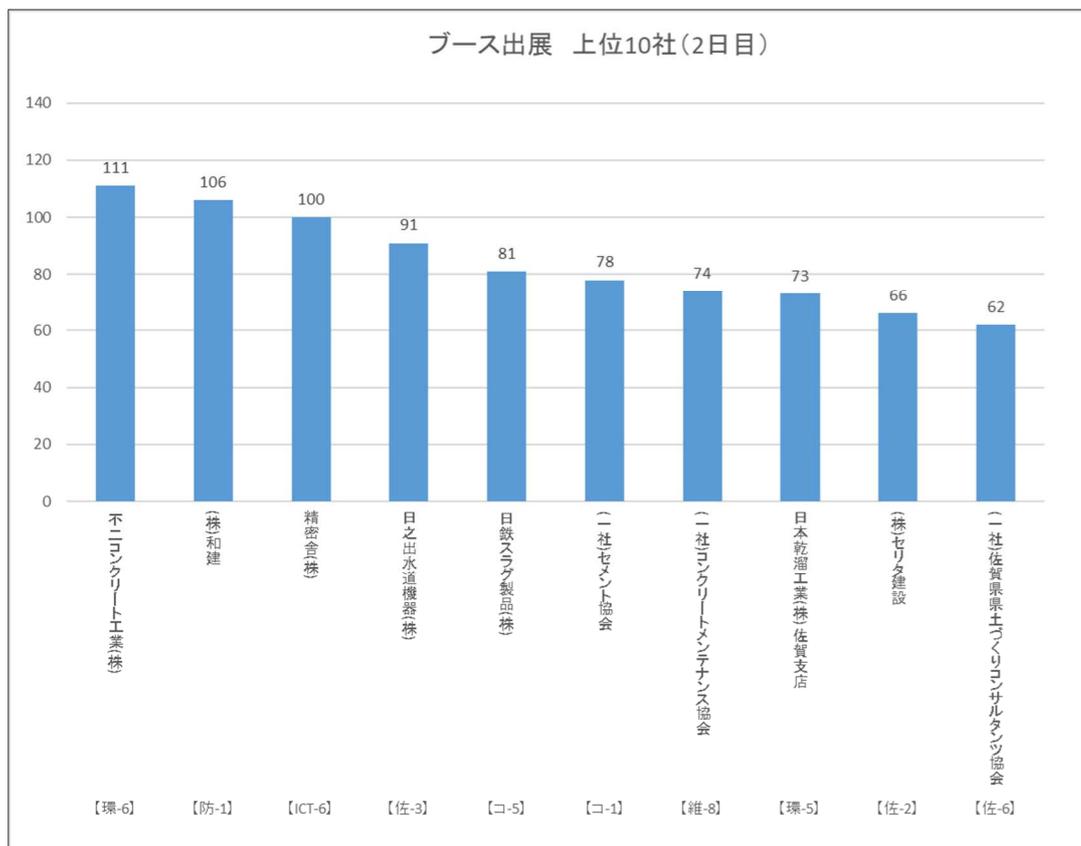
【悪い】

- ・土木が多いです



【出展ブース確認押印欄の上位 10 社（2 日目）】

アンケート用紙に設けた出展ブース確認押印欄を集計したところ、上位 10 社はグラフの通りであり、環境に関する技術の【環-6】不二コンクリート工業（株）が最も多く、次いで防災に関する技術の【防-1】（株）和建となっています。



(3) 来場者からの自由意見

- ・受付がわかりにくかった
- ・API への取組み等
- ・DX 関連・活用事例
- ・ICT の技術説明
- ・IoT、AI などの新技術
- ・VR 体験をしたかったのですが人が多くて無理でした
- ・新しい測量機器や技術について興味がある
- ・海に関する事業の話を知りたい
- ・屋外展示等、体験型
- ・会場がバラバラで移動の際にわかりにくかった
- ・解体作業について
- ・各分野の最新技術の動向
- ・技術の自動化についてもっと聞いてみたいです
- ・建築現場と ICT について
- ・建築のブースが増えるとより面白いと感じた
- ・県内業者の技術提案はないですか
- ・講演の聴講者が少ない印象。会場の場所がわかりにくいので案内誘導をされてはどうか
- ・鋼橋、維持管理（橋梁）
- ・今後、新しい測量技術が増えたら紹介してほしい
- ・今後も佐賀の技術力向上を望む
- ・災害復旧工法
- ・最新技術の出展に興味を持ったのでこれからも見てみたいです
- ・佐賀県での事業をまとめたブースを増やしてほしい
- ・佐賀県独自の製品・技術等
- ・佐賀の特色である軟弱地盤及び地盤改良工法等は続けてほしい
- ・サンライズパークのように、実際の建築現場についての紹介や説明
- ・時期、時間の関係上、高い年齢層の参加になるがブースの展開を変えて、低年齢層の参加を促してみてもいいのでは？
- ・住宅建築について
- ・出展ブースでの積極的なプレゼンを期待します
- ・出展ブースの企業を増やしてほしい
- ・上下水道に係る技術
- ・消防関連
- ・新技術（災害）に関するフェアを期待しています

- ・新技術の情報、ドローン、3D について
- ・新技術の費用対効果に関する物
- ・水門に関する技術も見てみたいです
- ・生態系に関する技術
- ・鉄道関係の技術
- ・当日の受付ができることをチラシに記載してはどうか（チラシでは事前 WEB 申込が必須となっている）
- ・土木以外のものも展示してほしい
- ・土木関連が多いのはとても興味がわき楽しく学ぶことができましたが、建設の設計に関する内容をもっと知りたいと思いました
- ・西九州新幹線に関する情報・ブースを見たかった
- ・発表を聴きたかったがスペースがなかった
- ・補強土壁
- ・模型でのシミュレーションが見られたらと感じました（防災設備等）
- ・もっと VR を見てみたい
- ・もっとたくさんの企業にブースを出していただきたい（特に新技術）
- ・より建築に関わり比重が大きいものがあればよりありがたいと思った
- ・来年以降も開催をお願いします
- ・塗装の技術が見てみたいです
- ・ICT ブースをもう少し多くしてくれたら・・・
- ・自治体の公共施設等長寿命化の進捗
- ・出展応募しましたが、漏れたのでブース枠を増やしていただければいい

5.2 出展者アンケート

出展者を対象にアンケート調査を行いました。42社の出展者のうち、15社から回答をいただきました。

設問1) 出展の目的は

新製品等のPR、企業・団体のPR、営業活動がほぼ1/3ずつを占めました。

設問2) 出展の目的は達成できたか

達成できた・やや達成できたが3/4以上を占め、達成できなかったは7%でした。

設問3) 次回も出展したいか

出展したいは79%で、出展しない7%でした。

設問4) 技術発表をしたか

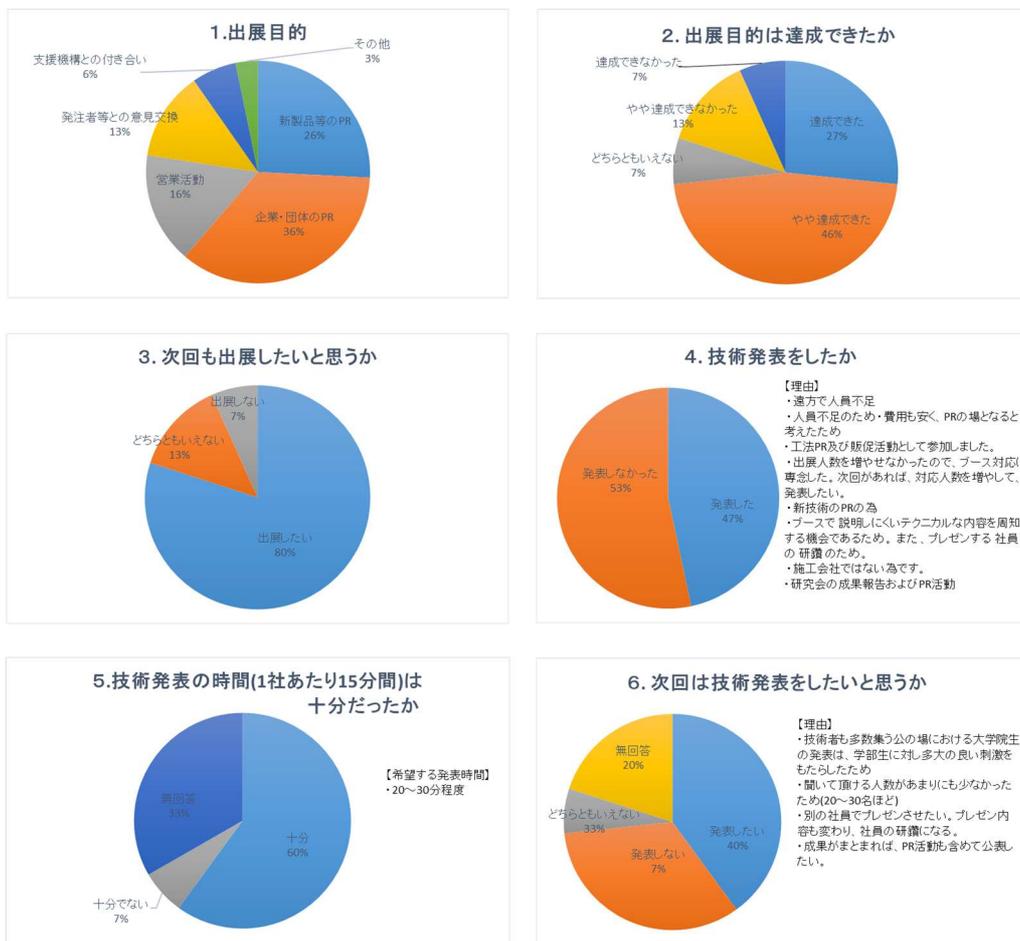
技術発表したのは43%でした。

設問5) 技術発表の時間(1社あたり15分間)は十分か。

半数は十分との回答でした。

設問6) 次回は技術発表をしたいか

次回も技術発表をしたいと答えたのは40%でした。



設問 7) 来場者数に満足したか

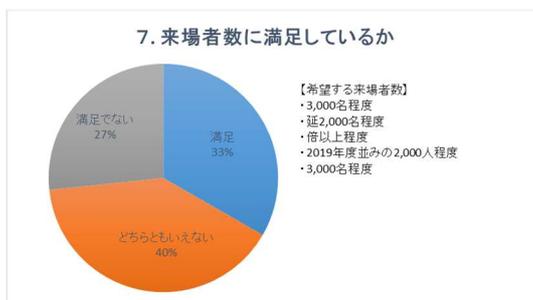
満足と回答したのは 33%でした。

設問 8) フェア後に来場者に PR したか

半数以上の出展者がフェア後に PR したようです。

PR した内容と相手は、以下の通りです。

- ・多くの企業・官公庁の採用担当者に対して PR した
- ・佐賀市役所 建設部 道路整備課 橋梁点検システムの提案
- ・役所・コンサル・GC 等に御礼も兼ねて再度商品を PR
- ・必要としている人がいるにはいたが、1 台あれば十分といった規模であり、購入先は近くのお店でとなっていたため
- ・展示会場でお問合せいただいたお客様にメールでリーフレットを送付した
- ・来場のお礼、質問の回答、補足説明
- ・土木コンサルタントに工法・実績等を説明しました。
- ・建設会社や舗装会社、路盤材や簡易舗装材（防草対策）製品の営業
- ・御礼メール、個別の案件対応
- ・名刺を頂いた方のみ、DM でお礼と PR を実施した。学生等についてもメールアドレスが分かるとその後のフォローがしやすい。
- ・測量会社様、建設会社様、高等学校様へ測量機等を PR しました。
- ・学生および一般企業を相手に、フローティング基礎工法ついて説明した。



設問 9) フェア後に来場者からの問合せはあったか

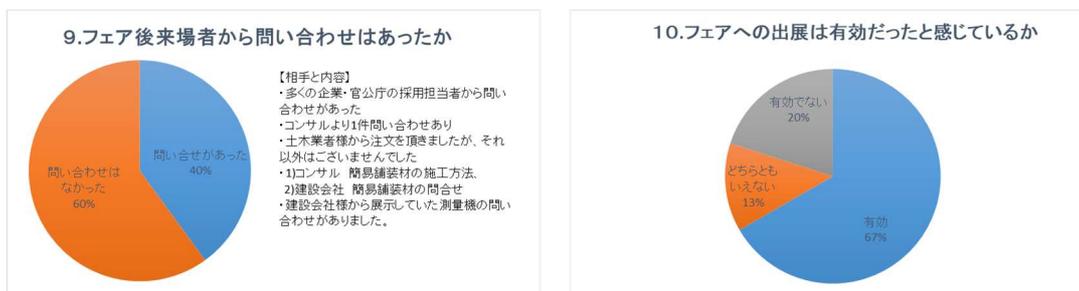
来場者から問合せがあったのは 40%でした。

設問 10) フェアへの出展は有効だと感じたか

67%は出展が有効だったと感じているようです。

理由は、以下の通りです。

- ・参加させた学生たちの質問・感想に基づき、多大の有効性について確認することができた
- ・ほとんどの出展者が、国交省、佐賀県、県内の各市町村の発注者の来場を望んでいるように思う。学生さんと CPD を取りに来た建設会社の従業員ばかりだったので、製品購入や設計に織り込んでもらうという目的が達成できなかった。
- ・NEXCO や JR、九州電力といったインフラ企業の来場者が増えるなら出展したい。そうなると出展料も 15 万円くらいまで上げて良いと思う。
- ・弊社のターゲットは自治体ですが、来場者の中から自治体職員を特定することが困難でした
- ・今回佐賀大学工学部の学生が来場し、数名が当社商品に興味を持ってくれた為
- ・販売に結びついていないため
- ・お客様が話題と思っていることを共有でき、今後の開発の参考となる点
- ・製品認知活動ができたため
- ・来場者が建設業界や学生であったため、営業・理解活動対象とマッチして、充実した PR を実施できた。
- ・高校生や大学生に向けたアピールができ、結果につながった。
- ・Y-Navi の購入者は増えている。また、施工実績も佐賀県を中心に増加している。
- ・来場者の中には普段、弊社がお付き合いしていないような色々な分野の方たちもいらっしゃいました。そういった方たちにも自社の PR ができた為、今後も出展参加させて頂きたいと思います。
- ・九州における知名度を少しでも向上することができた。



設問 11) 配布したポスターやチラシは活用したか

ポスターやチラシを活用したのは 60%でした。

設問 12) 出展費用（ブース 70,000 円、技術発表 10,000 円）は妥当か

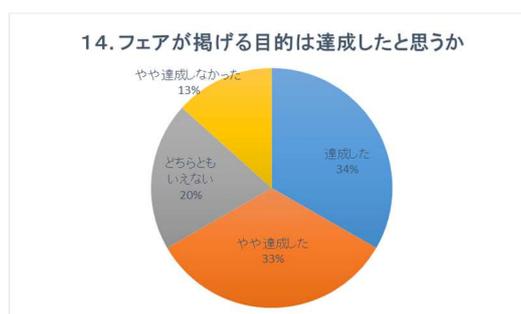
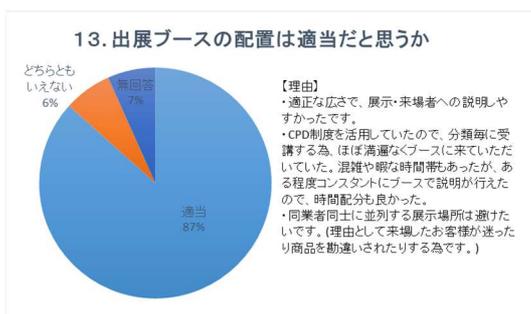
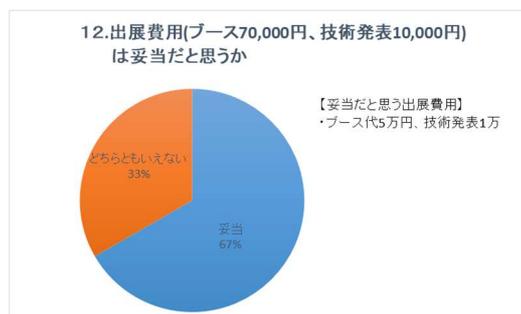
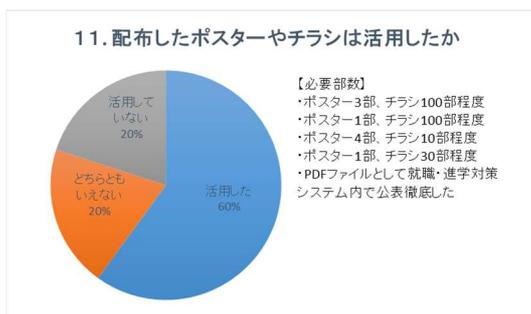
妥当と感じた出展者は 67%でした。

設問 13) 出展ブースの配置は適当か

8 割程度は適当だという結果になりました。

設問 14) フェアが掲げる目的は達成したと思うか

達成したとやや達成したという回答を合計すると 67%となりました。



設問 15) フェアの開催時期と開催時間は妥当か

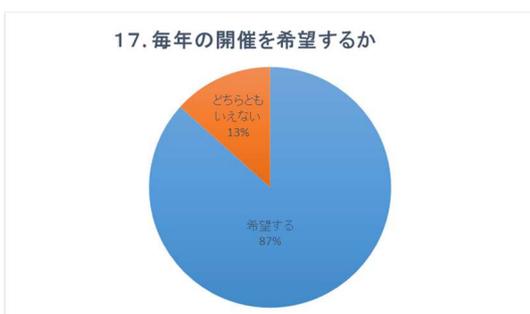
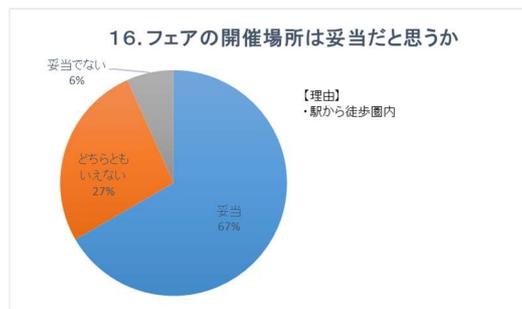
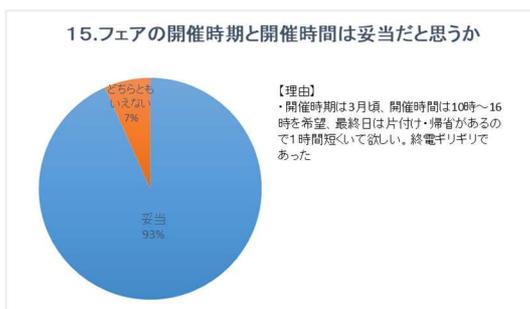
妥当という回答は 93%でした。

設問 16) フェアの開催場所は妥当か

妥当と感じた出展者は 67%いたようです。

設問 17) 毎年の開催を希望するか

希望すると回答した方が 87%でした。



【出展者からの自由意見】

- ・出展者、技術発表を行うものとしては、発注者に向けても、PR したいはず。来場者をどこに定めるかを検討しなおすとより出展者が増えるように思う。新卒採用を狙うための出展であれば本展は効果があると思うが、それでは本当に地元の企業しか出展しなくなると思う。
- ・出展者の交流会等があれば、新たな商圈が生まれるかもしれないと感じました。
- ・佐賀県内だけでなく、九州全土から来てもらえるような展示会であれば、もっと魅力的なものとなると思います。
- ・有意義なフェアに参加でき、ありがとうございました。フェア後の反応も良く、期待が持てます。災害が多くなっている昨今、防災やコスト改善に力を入れていきたいので、毎年開催していただき PR の場を設けていただけると助かります。
- ・一般来場者とのその後のフォローは、名刺をもらうため継続できるが、学生へのフォローは困難である。学生への連絡フォローも取れない状況であるし、引率者である教育者からも名刺ももらえない現状である。現状のままでは、学生への対応継続するのはその場のみの対応となり、企業としては対応方法を検討しなくてはならない。
- ・次世代の担い手を育てるという観点で学生との交流は有意義でした。一方で、発注者の来場が少なかったように感じます。新技術の採用にハードルはありますが、興味を持っていただくことに意義があると思います。コロナの影響が懸念されますが、来年の来場者増加に期待いたします。
- ・国土交通省九州地方整備局らが主催する「九州建設技術フォーラム」では、生徒・学生の参加を積極的に斡旋する理由の一つに「リクルート活動の場も兼ねる」ことを堂々と公言しており、このようなスタンスを撒き餌にブース出展者等を募っているところがある。SAGA 建設技術フェア 2022 においても、表向きはともあれ前述のような露骨さを内に秘めても差し支えないと考える。生徒・学生に対する地元の企業・官公庁の魅力伝達の苦しさは、地元の産官学に共通する課題であり、SAGA 建設技術フェアにはその解決の糸口としての期待ができ、公益性も十分に担保されると考えるのは当該アンケートの回答者のみであろうか？
- ・今回、初出展でしたが、当日に出展者も受付が必要であるとかそういうルールが良く判らなかつたうえに、会場で主催者の方と挨拶をする機会もなく、それはもったいない気がした。搬入搬出まで含め、スムーズにはできました。
- ・自治体職員、建設業者、建設コンサルタント業者、この3業種が出展側から視覚的に分かるような取り組み(腕章など)があると、製品 PR、営業活動がよりスムーズとなり、当フェアの目的である新技術導入の促進につながるものと考えます。押印のみを目的とした来場者が散見されました。対策は難しいと感じますが、入場有料(学生無料)とし、来場者数を抑えて、質を向上させる方向性も個人的には良いのではと感じます。
- ・今回の会場は佐賀駅より少し離れた場所にあり、公共交通機関を利用される来場者にとつ

では、少々不便だと思いました。また、搬出入場所が狭く、結構長い時間順番待ちをしました。会場については、一考の余地があるのではと感じました。

・我々企業は営利企業で、出来れば購買意欲を持ってきていただきたいです。学生さんと一般企業の方が同じタイミングで来ると、どうしても一般の方を優先してしまうので時間帯によって客層を変えるなどすれば、そういった事も無くなるので助かるかもしれません。時期としては、期末予算が余って買えたりする2月末～3月上旬もしくは新たな期となる4月頃などに行って貰えると販売に結びつくのではと考えます。

・荷物の搬入時にエレベーターの前に車を停めたまま、まったく戻ってこない会社があった。そのため、荷物が搬入できず立ち往生した会社が弊社を含め複数あった。(搬入時に雨が降っていたため車をエレベーター前に寄せる必要があった)今一度、荷物を降ろした後は速やかに車の移動することを徹底する必要があると思った。今回は、マリトピアの人に相談したところ搬入後に速やかに車を動かすようにアナウンスをしてもらえた。アナウンス後はスムーズに搬入ができた。

・出展者の人数制限をやめて欲しいと思います。

・Web 参加申込がかなり早い段階で締め切られており、弊社既存のお客様をまったく集客できなかった。

・コロナ禍による制限があった事は仕方のない事ですが、入場者が多い朝などはブース対応者が2名では捌けない瞬間もあり、待っている入場者で密になったり、他のブースに流れたりしていた。臨機応変に対応が出来れば良かった。製品説明とリクルート活動の場を工夫出来ると、もっと良い説明が出来たのではと、今後の課題。

・屋外展示ができれば建機メーカー様の重機等の展示があっても面白いと思います。

6. まとめ

当機構は、地方公共団体の建設行政との連携・協働を図り、社会資本の整備及び公共施設の維持管理に関する各種の技術支援事業を通じて、県民の安全で安心な生活の実現に寄与することを目的としています。

当フェアは、公益目的事業の「技術力向上のための技術情報発信事業」における「建設技術情報啓発事業」に位置付けており、日々進化する建設技術の情報収集発信・活用が必要不可欠であるという観点から建設技術の理解を深めるための取り組みの一環として実施しました。

3年振りに開催しました今回のフェアは、新型コロナウイルス感染予防対策を実施したうえで、来場者を事前予約制にするなど、例年とは異なる開催となりました。

来場者ならびに出展者に対して実施しましたアンケート結果を見ると、多くの方にご満足いただいた一方、当日対応や出展内容などへのご意見・ご要望が多数あり、今後の開催にあたっての課題も明らかになりました。今後はそれらの課題を改善しながら、継続開催を希望する声も多かったことから充実したフェアとなるよう努めてまいります。

また、継続開催のためには、国や自治体、県内の建設業関連の団体・協会のご理解やご協力は必要不可欠で、佐賀大学や県内高校の学生・生徒が積極的に参加できるように連携していくことも重要と考えています。

最後に、当フェアを開催するにあたり多大なご協力をいただきましたご講演者の皆様、佐賀県をはじめとした共催者および後援の方々、ならびに関係各位に厚く御礼を申し上げますとともに、今後の継続開催へのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(以上)